

教育学部

- 教育学科
- 乳幼児発達学科

教育学部の前身は文学部教育学科であり、1947年の玉川大学創立時に創設された。それから55年過ぎた2002年、文学部の改組により教育学部として再出発した。そのようなわけで、教育学部は文学部教育学科時代を含む約60年におよぶ歴史を有している。その間、創立者小原國芳が提唱した全人教育を基盤として、単に幼児教育、初等教育、中等教育の学校教育の分野のみならず、広く社会教育の分野でも活躍する多くの人材を輩出し、その活躍によって社会から「教育の玉川」という高い評価を受けてきた。

現在教育学部は、教育学科と乳幼児発達学科の2学科から構成され、0歳から18歳までの教育、保育をすべてカバーする「教育・保育の総合学部」として、学校教育、生涯教育、社会教育はもちろん、ひろくヒューマンサービスの分野で活躍できる人材の養成を目指している。

より詳しく言えば、教育学科は、学校教育界における指導者（幼稚園教諭、小学校教諭、中学校教諭〈社会、保健体育〉、高等学校教諭〈公民、保健体育〉）のほか、豊かな精神生活を支える新しい文化生活のコーディネーター、キャリアカウンセラー（図書館司書、社会教育主事、学芸員等）として活躍できる人材の養成を目指している。

他方、乳幼児発達学科は、幼稚園教諭や保育士のほか、社会的ニーズが増大している子育てコーディネーターとして、幅広い分野で活躍できる人材の養成を目指している。